

## 今日のキーワード 「設備投資余力」が大きい米国企業

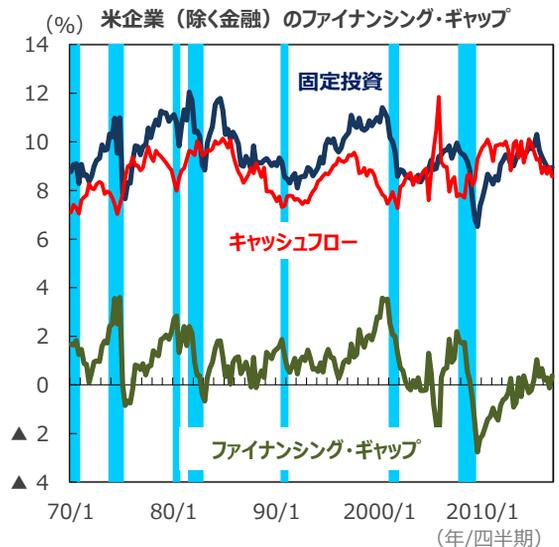
設備投資に在庫投資を加えた固定投資と、税引後利益に減価償却費などを加えたキャッシュフローの差をファイナンス・ギャップ（資金差額）といいます。投資を実施するのに必要な資金のうち、どの程度を自己資金で賄ったかを測る指標です。ファイナンス・ギャップは、米連邦準備制度理事会（FRB）が四半期ごとに公表する財務勘定統計で把握することができます。直近16年10-12月期の統計は、3月9日に公表されました。

### ポイント1 投資が自己資金を上回ってきた ファイナンス・ギャップがプラスに転換

■FRBの財務勘定統計によると、2016年10-12月期の米非金融企業のファイナンス・ギャップは、696億ドル、対GDP比で+0.37%となりました。前期（7-9月期）に▲246億ドル、同▲0.13%と、7四半期振りにキャッシュフローが固定投資を上回りましたが、再び固定投資がキャッシュフローを上回りました。

### ポイント2 在庫投資が増加 キャッシュフローは伸び悩み

- 16年10-12月期の固定投資は1兆6,859億ドル、前期比2.2%増と6四半期振りの増加となりました。設備投資は前期の1兆6,435億ドルから1兆6,399億ドルへと0.2%の減少となりましたが、在庫投資が前期の51億ドルから467億ドルへと大幅に拡大したためです。
- 一方、同期のキャッシュフローは1兆6,163億ドル、前期比3.4%の減少でした。税引前利益が1兆2,774億ドル、同1.7%減となったうえ、支払配当が6,427億ドル、同6.1%の増加となったのが響きました。減価償却費は1兆3,209億ドル、同0.7%増でした（長期間使用される資産の購入のために支払った費用を、その資産が使用される期間にわたって配分することを減価償却といいます）。



(注) データの期間は1970年1-3月期～2016年10-12月期。すべて対GDP比。網掛は景気後退期。  
(出所) FRBのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 設備投資は今後、上向き見通し

#### ■ 資金面から見た設備投資の拡大余地は大

直近の米企業のファイナンス・ギャップは+0.37%と、1970年以降の平均+0.81%よりも低い水準にとどまっています。資金面から見た米企業の「設備投資余力」が大きいことを示唆しています。

#### ■ 景気循環は上向き、設備投資も増加しよう

現在、米国は景気循環の上昇局面にあり、今後は企業利益の持ち直しが見込まれます。「設備投資余力」が大きいことから、投資も増加の勢いを増すと予想されます。

ここも  
チェック! 2017年3月15日 史上最高となった家計の「正味資産」(米国)  
2017年3月13日 堅調に推移する米国の雇用統計(2017年2月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。